

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>1 スポーツ推進施策の充実強化について</p> <p>①県内競技団体に対する強化費用の支援について</p> <p>天皇杯得点8位以内を目標に掲げた希望郷いわて国体・希望郷いわて大会は、冬季大会が終了し、いよいよ本国体を迎えようとしています。</p> <p>国体終了後においても、国体レガシー(遺産)として競技力の維持・向上や継続的に賑わいの創出を図ることが重要であり、また、ラグビーワールドカップ2019の釜石市開催や2020東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地誘致は、国体レガシーを未来に引き継ぐ上で極めて重要な意義のある取組であります。</p> <p>スポーツの地域振興に果たす役割の広汎性に鑑み、岩手県におきましては、政策地域部と教育委員会が所管しておりますスポーツ推進施策は、一元化的に取り組むことがより効果的であると存じております。</p> <p>スポーツ施設の老朽化対策については、多くの県営施設が配置されている本市においても重要な課題と捉えており、県営施設の整備計画は、本市のスポーツ施設の整備計画に大きく影響するものであります。</p> <p>プロバスケットボールリーグ(Bリーグ)の1部昇格を目指す岩手ビッグブルズやサッカーJ2昇格を目指すグルージャ盛岡への支援、プロ野球観戦機会の拡充などプロスポーツに関する施策については、新たな対応が求められております。</p> <p>つきましては、地域活性化に多大なる貢献が期待できるスポーツ施策のさらなる推進を図るため、次のとおり要望いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 希望郷いわて国体のレガシー(遺産)を未来に引き継ぐため、県内競技団体に対する強化費用の水準維持と支援を継続していただきたいこと。</p>	<p>希望郷いわて国体を契機に高まった競技力を維持していくことは、重要であり、希望郷いわて国体後の国体で一定の成果を上げるためにも関係競技団体への選手強化支援は、必要であると考えています。</p> <p>このことから、引き続き競技力の維持・向上を図るためにも、平成29年度における関係競技団体への選手強化費の支援を継続することとしています。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>2 スポーツ推進施策の充実強化について</p> <p>②スポーツ推進体制について</p> <p>天皇杯得点8位以内を目標に掲げた希望郷いわて国体・希望郷いわて大会は、冬季大会が終了し、いよいよ本国体を迎えようとしています。</p> <p>国体終了後においても、国体レガシー(遺産)として競技力の維持・向上や継続的に賑わいの創出を図ることが重要であり、また、ラグビーワールドカップ2019の釜石市開催や2020東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地誘致は、国体レガシーを未来に引き継ぐ上で極めて重要な意義のある取組であります。</p> <p>スポーツの地域振興に果たす役割の広汎性に鑑み、岩手県におきましては、政策地域部と教育委員会が所管しておりますスポーツ推進施策は、一元化的に取り組むことがより効果的であると存じております。</p> <p>スポーツ施設の老朽化対策については、多くの県営施設が配置されている本市においても重要な課題と捉えており、県営施設の整備計画は、本市のスポーツ施設の整備計画に大きく影響するものであります。</p> <p>プロバスケットボールリーグ(Bリーグ)の1部昇格を目指す岩手ビッグブルズやサッカーJ2昇格を目指すグルージャ盛岡への支援、プロ野球観戦機会の拡充などプロスポーツに関する施策については、新たな対応が求められております。</p> <p>つきましては、地域活性化に多大なる貢献が期待できるスポーツ施策のさらなる推進を図るため、次のとおり要望いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>2 地域振興及び活性化の観点から、スポーツ推進体制の一元化を図っていただきたいこと。</p>	<p>希望郷いわて国体・いわて大会を通じて醸成された県民のスポーツに対する関心の高まりや参画意識を次の世代に引き継いでいく必要があること、また、ラグビーワールドカップ2019や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催等により本県のスポーツに新たな発展が期待されていることなどを踏まえ、文化・スポーツを核とした諸施策を観光振興施策等との連携を図りながら、効果的、戦略的に展開するため、平成29年4月に知事部局に文化スポーツ部を新設します。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>A</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>3 スポーツ推進施策の充実強化について</p> <p>③県営施設の整備計画について</p> <p>天皇杯得点8位以内を目標に掲げた希望郷いわて国体・希望郷いわて大会は、冬季大会が終了し、いよいよ本国体を迎えようとしています。</p> <p>国体終了後においても、国体レガシー(遺産)として競技力の維持・向上や継続的に賑わいの創出を図ることが重要であり、また、ラグビーワールドカップ2019の釜石市開催や2020東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地誘致は、国体レガシーを未来に引き継ぐ上で極めて重要な意義のある取組であります。</p> <p>スポーツの地域振興に果たす役割の広汎性に鑑み、岩手県におきましては、政策地域部と教育委員会が所管しておりますスポーツ推進施策は、一元化的に取り組むことがより効果的であると存じております。</p> <p>スポーツ施設の老朽化対策については、多くの県営施設が配置されている本市においても重要な課題と捉えており、県営施設の整備計画は、本市のスポーツ施設の整備計画に大きく影響するものであります。</p> <p>プロバスケットボールリーグ(Bリーグ)の1部昇格を目指す岩手ビッグブルズやサッカーJ2昇格を目指すグルージャ盛岡への支援、プロ野球観戦機会の拡充などプロスポーツに関する施策については、新たな対応が求められております。</p> <p>つきましては、地域活性化に多大なる貢献が期待できるスポーツ施策のさらなる推進を図るため、次のとおり要望いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>3 県営施設の整備計画について、早急に策定いただきたいこと。</p>	<p>県営体育施設の今後のあり方については、平成29年1月に設置した「県営体育施設のあり方に関する懇談会」において、外部有識者や競技団体等からの御意見をいただきながら、市町村との連携・協働、役割分担や、本県の財政状況などをも十分に踏まえ、総合的に検討していきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>4 スポーツ推進施策の充実強化について ④スポーツ施設の高規格化整備について 天皇杯得点8位以内を目標に掲げた希望郷いわて国体・希望郷いわて大会は、冬季大会が終了し、いよいよ本国体を迎えようとしています。 国体終了後においても、国体レガシー(遺産)として競技力の維持・向上や継続的に賑わいの創出を図ることが重要であり、また、ラグビーワールドカップ2019の釜石市開催や2020東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地誘致は、国体レガシーを未来に引き継ぐ上で極めて重要な意義のある取組であります。 スポーツの地域振興に果たす役割の広汎性に鑑み、岩手県におきましては、政策地域部と教育委員会が所管しておりますスポーツ推進施策は、一元化的に取り組むことがより効果的であると存じております。 スポーツ施設の老朽化対策については、多くの県営施設が配置されている本市においても重要な課題と捉えており、県営施設の整備計画は、本市のスポーツ施設の整備計画に大きく影響するものであります。 プロバスケットボールリーグ(Bリーグ)の1部昇格を目指す岩手ビッグブルズやサッカーJ2昇格を目指すグルージャ盛岡への支援、プロ野球観戦機会の拡充などプロスポーツに関する施策については、新たな対応が求められております。 つきましては、地域活性化に多大なる貢献が期待できるスポーツ施策のさらなる推進を図るため、次のとおり要望いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>4 本市が行うスポーツ施設の高規格化整備に関し、新たな財政支援策の創設及び共同整備について検討いただきたいこと。</p>	<p>本県のスポーツ振興にあつては、県と市町村が互いに連携を図って、新設・既設を問わずスポーツ施設を有効活用し、推進していくことが肝要であると考えています。 盛岡市が計画している新たな野球場の整備に関しては、市が平成29年度に行うことを予定している民活導入可能性調査の結果等を踏まえ、今後、市と県との間で具体的な協議をしながら検討することとしています。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>経営企画部</p>	<p>B</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>5 スポーツ推進施策の充実強化について ⑤プロスポーツに対する支援策について 天皇杯得点8位以内を目標に掲げた希望郷いわて国体・希望郷いわて大会は、冬季大会が終了し、いよいよ本国体を迎えようとしています。 国体終了後においても、国体レガシー(遺産)として競技力の維持・向上や継続的に賑わいの創出を図ることが重要であり、また、ラグビーワールドカップ2019の釜石市開催や2020東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地誘致は、国体レガシーを未来に引き継ぐ上で極めて重要な意義のある取組であります。 スポーツの地域振興に果たす役割の広汎性に鑑み、岩手県におきましては、政策地域部と教育委員会が所管しておりますスポーツ推進施策は、一元化的に取り組むことがより効果的であると存じております。 スポーツ施設の老朽化対策については、多くの県営施設が配置されている本市においても重要な課題と捉えており、県営施設の整備計画は、本市のスポーツ施設の整備計画に大きく影響するものであります。 プロバスケットボールリーグ(Bリーグ)の1部昇格を目指す岩手ビッグブルズやサッカーJ2昇格を目指すグルージャ盛岡への支援、プロ野球観戦機会の拡充などプロスポーツに関する施策については、新たな対応が求められております。 つきましては、地域活性化に多大なる貢献が期待できるスポーツ施策のさらなる推進を図るため、次のとおり要望いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>5 岩手県内に本拠地を置くプロスポーツに対する具体的な支援策を講じていただきたいこと。</p>	<p>県では、県内を本拠地とするトップスポーツチーム(岩手ビッグブルズ、グルージャ盛岡、釜石シーウェイブス)と連携し、児童生徒を対象としたスポーツ教室や、高齢者を対象とした運動教室の開催など、県民のスポーツ機運の醸成、県民の健康づくり、運動機会の創出をはじめとするスポーツによる地域活性化の取組を、各チームと協働しながら進めて参ります。</p>	盛岡広域振興局	経営企画部	B

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>6 社会資本整備総合交付金及び防災・安全交付金に係る事業の推進について</p> <p>盛岡市では、「ひと・まち・未来が輝き 世界につながるまち盛岡」を将来像に掲げ、鉾屋町をはじめとする歴史的街並みを活用した地域の活性化や、時代の変化に合わせた新たな手法を盛り込んだ土地区画整理事業等による都市基盤の整備、「もりおか交通戦略」による都市活動を支える交通を中心とした交通環境の構築など、各種施策に取り組んでおります。</p> <p>このような状況の下、社会資本整備総合交付金及び防災・安全交付金は、地域の実情に応じて柔軟な活用が可能な創意工夫を生かせる一括交付金であり、円滑な都市活動や安全な交通の確保、インフラの点検、修繕・改築などの老朽化対策、うるおいのある河川環境の創出及び下水道の整備など住民の安全で快適な生活環境の確保等、市民生活の向上に大きく寄与するものと期待しております。</p> <p>つきましては、その特性を存分に発揮し、滞りなく事業を推進するため、事業費を確保できますよう国への働きかけと適正な配分について要望いたします。</p>	<p>平成28年度政府予算において、「社会資本整備総合交付金」及び「防災・安全交付金」を合わせた本県への配分額は、前年度を下回り、依然として、県民の安全で安心な暮らしを守る防災施設等の整備や、物流を支える幹線道路ネットワークの整備、老朽化した橋梁などの社会資本の維持管理など、本県にとって必要な社会資本を適切に整備し、維持管理していくための予算が十分に確保されていない状況にあります。</p> <p>このため、「平成29年度政府予算提言・要望」として、知事が、平成28年6月7日に国土交通省等に対して「地方の社会資本整備を推進するための予算の確保」等について提言・要望したところです。</p> <p>今後とも、地方の社会資本整備を着実に推進するための予算の確保について国に提言・要望していきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>7 一般国道106号「都南川目道路」の整備促進について</p> <p>一般国道106号は、太平洋沿岸の重要港湾宮古港を有する宮古市を起点として、県都盛岡市に至る延長約100Kmの路線であり、一般国道46号と連結し、日本海沿岸の主要都市秋田市を結ぶ県中部横軸を形成し、岩手県の産業・経済・文化の交流や観光開発等において大きな役割を担う極めて重要な路線であります。</p> <p>また、東北縦貫自動車道及び東北新幹線による中央と東北を結ぶ縦の高速交通軸の効果を北東北全域に波及させ、国土の均衡ある発展に寄与する重要路線でもあります。</p> <p>特に、宮古盛岡横断道路は、宮古市を中心とした三陸沿岸地区と盛岡都市圏との強力な連携を促進することにより、産業経済の活性化とあわせて、三陸沿岸地区の早期復興を支援する道路でもあります。平成24年度から、新たに宮古(みやこ)～箱石(はこいし)間、平津(ひらつ)戸(と)・岩井(いわい)～松(まつ)草(くさ)間、区界(くざかい)～築(やな)川(がわ)間の3工区48Kmが本格的に事業着手され、平成25年3月には、「築川道路」が供用開始されたところであり、平成28年3月には、「都南川目道路」の川目IC～田の沢IC間が供用となり、着実に事業に取り組んでいただいているところであります。</p> <p>この中において、一般国道106号「都南川目道路」は、東北縦貫自動車道とのアクセスの強化、盛岡市中心部へのアクセス向上や、高次医療施設への救急搬送を担う重要な区間ともなっております。</p> <p>つきましては、広大な面積を有する岩手県において、災害に強い県土を構築し、豊かな地域資源を活かした地域づくりの実現と、「ひと・まち・未来が輝き世界につながる盛岡」の実現のために、一般国道106号「都南川目道路」の整備促進について国に働きかけていただきたく要望いたします。</p>	<p>三陸沿岸地域の早期復興のためには、高規格幹線道路や地域高規格道路による三陸沿岸の縦貫軸及び宮古盛岡横断道路等の内陸と沿岸を結ぶ横断軸で構成される道路ネットワークの構築が必要不可欠であると考えています。県ではこれらの道路を「復興道路」として位置づけ、国の「『復興・創生期間』における東日本大震災からの復興基本方針」に沿って着実に整備を進め、早期の全線完成を国に対し要望しています。</p> <p>平成28年3月12日には、川目IC～田の沢IC間の2.6kmが開通したところであり、国においてかつてないスピードで整備が進められています。</p> <p>今後とも関係市町村と連携を図りながら、国に対し整備促進を強く働きかけていきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>8 一般国道106号「宮古盛岡横断道路（復興支援道路）」の整備促進及び直轄指定区間編入について</p> <p>①整備促進について</p> <p>一般国道106号は、太平洋沿岸の重要港湾宮古港を有する宮古市と県都盛岡市を結ぶ延長約100kmの路線であり、東日本大震災の際には、緊急輸送道路の「くしの歯作戦」の一路線として、迅速な救助活動、救援物資の搬送ルートとして利用され、現在「宮古盛岡横断道路（復興支援道路）」として、国の権限代行により整備にご尽力いただいているところです。</p> <p>本路線は、宮古・盛岡間の移動時間が短縮され、物流の効率化促進はもちろんのこと、これに伴う地域産業の活性化、周遊観光圏域の拡大による経済効果、沿岸部から内陸部の高次医療施設への救急搬送や医療活動の安定性・迅速性の確保ができるなど、「ストック効果」の発揮が大いに見込める路線であります。</p> <p>また、盛岡市と日本海沿岸の主要都市である秋田市を結ぶ一般国道46号・13号とあわせて、太平洋と日本海を結ぶ、国土軸を形成する重要路線でもあります。</p> <p>一方、本路線は、北上高地特有の急峻な地形のため、トンネルや高架橋による整備により、高度な維持管理に関する技術が必要とされます。また、全区間延長の約40%を超える区間が別線であり、別線整備区間の現道における既存集落については、生活道路としての機能確保、バス路線維持等の自治体としての新たな役割が必要と見込まれており、国と地方自治体の役割分担による適切な管理が望まれます。</p> <p>つきましては、東日本大震災からの早期復興に向け、災害時や冬期間の道路交通の確保を一段と確かなものとし、三陸沿岸地区と内陸との強力な連携により北東北地域の産業・経済・文化の交流、豊かな地域資源を活かした観光誘客等の促進を図るとともに、国と地方自治体の役割分担による適切な維持管理が図られるよう、次のことを国に働きかけていただきたく要望いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 一般国道106号「宮古盛岡横断道路（復興支援道路）」の整備促進を図ること。</p>	<p>三陸沿岸地域の早期復興のためには、高規格幹線道路や地域高規格道路による三陸沿岸の縦貫軸及び宮古盛岡横断道路等の内陸と沿岸を結ぶ横断軸で構成される道路ネットワークの構築が必要不可欠であると考えています。県ではこれらの道路を「復興道路」として位置づけ、国の「『復興・創生期間』における東日本大震災からの復興基本方針」に沿って着実に整備を進め、早期の全線完成することを国に要望しています。</p> <p>今後とも関係市町村と連携を図りながら、国に対し整備促進を強く働きかけていきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>9 一般国道106号「宮古盛岡横断道路（復興支援道路）」の整備促進及び直轄指定区間編入について</p> <p>②直轄指定区間編入について</p> <p>一般国道106号は、太平洋沿岸の重要港湾宮古港を有する宮古市と県都盛岡市を結ぶ延長約100kmの路線であり、東日本大震災の際には、緊急輸送道路の「くしの歯作戦」の一路線として、迅速な救助活動，救援物資の搬送ルートとして利用され、現在「宮古盛岡横断道路（復興支援道路）」として、国の権限代行により整備にご尽力いただいているところです。</p> <p>本路線は、宮古・盛岡間の移動時間が短縮され、物流の効率化促進はもちろんのこと、これに伴う地域産業の活性化、周遊観光圏域の拡大による経済効果、沿岸部から内陸部の高次医療施設への救急搬送や医療活動の安定性・迅速性の確保ができるなど、「ストック効果」の発揮が大いに見込める路線であります。</p> <p>また、盛岡市と日本海沿岸の主要都市である秋田市を結ぶ一般国道46号・13号とあわせて、太平洋と日本海を結ぶ、国土軸を形成する重要路線でもあります。</p> <p>一方、本路線は、北上高地特有の急峻な地形のため、トンネルや高架橋による整備により、高度な維持管理に関する技術が必要とされます。また、全区間延長の約40%を超える区間が別線であり、別線整備区間の現道における既存集落については、生活道路としての機能確保、バス路線維持等の自治体としての新たな役割が必要と見込まれており、国と地方自治体の役割分担による適切な管理が望まれます。</p> <p>つきましては、東日本大震災からの早期復興に向け、災害時や冬期間の道路交通の確保を一段と確かなものとし、三陸沿岸地区と内陸との強力な連携により北東北地域の産業・経済・文化の交流、豊かな地域資源を活かした観光誘客等の促進を図るとともに、国と地方自治体の役割分担による適切な維持管理が図られるよう、次のことを国に働きかけていただきたく要望いたします。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>2 一般国道106号「宮古盛岡横断道路（復興支援道路）」については、国が直轄で管理すること。</p>	<p>三陸沿岸地域の早期復興のためには、高規格幹線道路や地域高規格道路による三陸沿岸の縦貫軸及び宮古盛岡横断道路等の内陸と沿岸を結ぶ横断軸で構成される道路ネットワークの構築が必要不可欠であると考えています。</p> <p>一般国道106号を指定区間に編入し、一般国道46号等と併せ、国で一体的に管理することについて国に対し要望しています。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>10 一般国道46号「盛岡西バイパス」の2車線供用区間の4車線化整備促進及び主要地方道上米内湯沢線以南への南進について</p> <p>一般国道46号「盛岡西バイパス」は、盛岡都市圏西側の環状道路の一部の機能を担う重要な路線であり、一般国道106号と連絡し、秋田市～盛岡市～宮古市を結ぶ地域連携軸を形成する重要な路線となっております。</p> <p>復興支援道路として整備が進められている宮古盛岡横断道路の都南川目道路については、平成31年度供用の目標宣言がされており、主要地方道上米内湯沢線を経由した東西の広域連携を強化するものと確信しております。</p> <p>国道46号の盛岡西バイパスの南端と接している主要地方道上米内湯沢線の沿線は、盛岡流通センターや盛岡市中央卸売市場、JR盛岡貨物ターミナル等、物流施設が立地し、また、国道4号や国道46号盛岡西バイパス、並びに東北縦貫自動車道盛岡南IC、国道106号都南川目道路が接続している道路環境にあることから、交通が集中し、国道4号や上米内湯沢線、その周辺道路に慢性的な渋滞が発生しております。</p> <p>本市においては、人口減少や少子高齢化に対応した持続可能な都市圏域を形成する中心都市として、医療等の高次都市機能の集積強化を推進するコンパクト&ネットワークの形成を図っていく必要があります。</p> <p>特に、平成31年に矢巾町への移転が決定している3次救急医療施設である岩手医科大学附属病院については、盛岡市内丸に残る(仮称)内丸メディカルセンターとの医療施設間の連携が必要となってきました。</p> <p>つきましては、盛岡市を中心とした連携中枢都市圏の圏域人口の維持、持続可能な経済・産業圏域の形成、高次都市機能の集約強化を図るとともに、渋滞がなく効率的な都市圏道路ネットワークの形成のため、国道46号盛岡西バイパスの4車線化及び上米内湯沢線以南への延伸について国に働きかけていただきたく要望いたします。</p>	<p>一般国道46号「盛岡西バイパス」については、平成25年12月に全線暫定供用開始したところです。本路線は、盛岡都市圏の交通を円滑にし、都市環境を改善するなど都市機能を高めるものであることから、引き続き2車線区間の早期4車線化及び主要地方道上米内湯沢線以南への南伸の早期事業化について国に対し要望していきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>11 道路局所管盛岡市道路整備事業の推進について</p> <p>盛岡市は県都として、また、北東北の交流拠点を目指し、行政、経済、教育・文化、医療等の高次の都市機能を備えたまちづくりを進めるとともに、これらの都市機能を支える基盤の整備に鋭意努めているところであります。</p> <p>しかしながら、歩行者の安全確保や道路事情の改善を図るためには、道路整備の実情は未だ十分とはいえない状況にあり、広域連携等の推進を図るための道路整備をはじめとして、学校、警察、道路管理者による通学路の緊急合同点検結果を踏まえた交通安全施設の整備が急務となっております。</p> <p>本市においては、人口減少、少子高齢社会に向けた取組として、東日本で唯一、盛岡広域圏における連携中枢都市として宣言したところであり、滝沢市、矢巾町との結びつきやネットワークの強化を図るなどにより両市町との一体的な発展を図るため、都市圏ビジョンに位置付けられた重要な基幹道路の整備が求められております。</p> <p>また、市街地を3河川（北上川(きたかみがわ)、中津川(なかつがわ)及び雫(しずく)石川(いしがわ))が流れ、多くの橋を有しておりますが老朽化しており、このほど制定された「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」を踏まえた、災害時にも対応した適切な長寿命化対策が課題となっております。</p> <p>つきましては、道路局所管盛岡市道路整備事業の着実な推進に加え、道路インフラの老朽化対策として、予算の安定的な確保及び人材育成のための研修制度等の充実について要望いたします。</p> <p>●津志田白沢線（連携中枢都市圏路線） 永井地区 ●谷地頭線 厨川地区 ●岩手公園開運橋線 菜園地区 ●東中野門線 東中野地区 ●南大橋明治橋線 鉦屋町地区 ●岩手飯岡駅東西自由通路 永井地区</p>	<p>道路は活力ある地域社会の形成、産業振興を図るうえで最も基礎となる社会資本の一つであり、地域間の交流・連携を促進するとともに地域住民の安全な生活を支える重要な役割を担っていることから、今後も通学路などの歩道整備を含めた道路整備の計画的かつ着実な推進が必要と考えています。</p> <p>御要望については、今後も貴市と連携しながら、着実な事業進捗が図れるよう事業費の確保等について国に働きかけていくとともに、道路インフラの老朽化対策については、必要な財政支援及び技術的支援を講じるよう国に対して要望しているところです。</p> <p>また、県内の安全かつ円滑な交通の確保及び効率的な道路管理を実現することを目的として、平成26年5月に「岩手県道路メンテナンス会議」を設立したところです。</p> <p>この会議では、県内道路管理者が連携しながら、技術力の向上や長寿命化の推進、維持管理についての情報共有、課題解決への連携を深めるため、例年、年に3回程度の会議開催と現地研修会を実施しています。</p>	盛岡広域 振興局	土木部	B

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>12 一般国道4号渋民バイパスへの道の駅整備について 一般国道4号渋民バイパスは、盛岡市渋(しぶ)民(たみ)字大前田(おおまえだ)から玉山(たまやま)馬場(ばば)字川原(かわはら)に至る約5.6kmのバイパスであり、暫定2車線として整備が進められ、平成16年12月には渋民字大前田からの約2.5kmの区間が開通し、平成27年4月に玉山馬場字川原に至る全線が開通されております。</p> <p>これにより、旧玉山村の市街地を通過する旧国道4号の交通量は半減し、特に、大型車車輛の激減により、通学路の安全性が確保されるなど、地域の安全で安心な道路環境が確保されました。</p> <p>道の駅構想については、平成6年頃から検討され、平成7年には一部用地を確保していたものでありますが、平成27年4月に国道4号渋民バイパスが全線供用されたことを受け、盛岡市として初の道の駅の整備に向け、市の各部局をあげて整備方針の具体的な検討を始めたところであります。また、市の動きに併せ、地域においても道の駅設置への機運が高まっており、石川啄木をテーマとした道の駅検討会が始動したところであります。</p> <p>本市の目指す道の駅は、姫神山や岩手山の眺望をいかしながら、石川啄木記念館や旧尋常小学校の建築物など、啄木ゆかりの施設との連携により、啄木が愛した原風景や過ごした時間を感じていただける施設であるとともに、渋民バイパス利用者の休憩場所・道路情報等の提供場所として、道路利用者や地域住民の交通安全の確保と利便性向上を図るほか、地域産業である、付加価値のある農畜産物の販売や素材を生かした食をテーマとする地域振興の拠点施設となり、また、啄木を愛する地域住民や子ども達の集いの場となる施設であります。</p> <p>つきましては、渋民バイパスの全線開通を契機に、地域資源を活用した地域再生を図るため、早期の整備が必要となっている状況にありますことから、当該道の駅整備の着実な推進について、国に働きかけていただきたく要望いたします。</p>	<p>「道の駅」は休憩機能、情報発信機能、地域の連携機能を併せ持つ施設で、道路利用者への安全で快適な道路交環境の提供と地域振興に寄与することを目的に設けられるものです。</p> <p>県としては、平成28年度から貴市において検討が進められる基本計画の策定状況を踏まえながら国に働きかけていきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>13 都市局所管盛岡市街路事業の推進について</p> <p>盛岡市は県都として、また、北東北の交流拠点都市を目指し、現都心から盛岡南新都心地区に至る軸状都心の計画的な形成を図りながら、行政、経済、教育・文化、医療等の高次の都市機能を備えたまちづくりを進めるとともに、これらの都市機能を支える基盤の整備に鋭意努めているところであります。</p> <p>しかしながら、既成市街地は、城下町特有である道路の整備率の低さのため多車線道路が少なく、バス等の公共交通機関が有効に機能しない状況となっております。さらに、新市街地の形成や隣接市町への市街地の拡大等により交通需要は増加傾向にあり、既成市街地の主要道路や中心市街地へ連絡する幹線道路等は、恒常的な交通混雑を引き起こし、円滑な都市活動や安全な交通の確保等が著しく阻害されており、街路の整備が急務となっております。</p> <p>本市においては、「もりおか交通戦略」を立案し、バスを中心とした公共交通軸の充実・強化や中心市街地へのアクセス交通を分散誘導の実現を図るべく交通政策と一体となった街路事業に取り組んでいるところであります。</p> <p>つきましては、都市局所管盛岡市街路事業の着実な推進についてご配慮いただきたく要望いたします。</p> <p>●梨木町上米内線 梨木町地区外 ●盛岡駅南大通線 大沢川原地区 ●明治橋大沢川原線 大通地区外</p>	<p>都心部における円滑な交通を確保し、良好な市街地形成を図るとともに、安全で安心な都市生活と機能的な都市活動を支えるためには、今後も街路整備の計画的かつ着実な推進が必要と考えています。</p> <p>ご要望については、今後も貴市と連携しながら、着実な事業進捗が図れるよう事業費の確保等について国に働きかけていきます。</p>	<p>盛岡広域 振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>14 盛岡市内の県道の整備促進について</p> <p>盛岡市は、現都心から盛岡南新都心地区に至る軸状都心の計画的な形成を図りながら、行政、経済、教育・文化、医療などの高次の都市機能を備えたまちづくりを進めるとともに、これらの都市機能を支える基盤施設の効率的な整備に鋭意努力しているところであります。</p> <p>しかしながら、新市街地の形成や周辺町村の市街地拡大に伴う本市への交通需要の増加等により、随所で恒常的な交通混雑が発生するなど、市民生活はもとより経済活動にも影響を及ぼしており、円滑な交通の確保を図るため、幹線道路の整備が急務となっております。</p> <p>特に、自動車交通の増加に伴う幹線道路の整備は、中心市街地と周辺部を安心・安全なネットワークの強化が図れ、行政、経済、教育・文化、医療など高次の都市機能を支援できることや、地域づくりや広域経済にもたらす波及効果が大きく、関係住民の大きく期待するところであります。</p> <p>また、玉山地域の一般県道渋(しぶ)民(たみ)川又(かわまた)線・主要地方道盛岡(もりおか)環状(かんじょう)線及び一般県道大更好摩(おおぶけこうま)線・好摩停車場(こうまていしゃば)線の未整備区間につきまして、歩道設置いただき、連続した安全な歩行空間を確保いただきますよう併せて要望いたします。</p> <p>つきましては、次の県道の整備促進について要望いたします。</p>	<p>(1) 一般県道大ヶ生徳田線 徳田橋</p> <p>現在の徳田橋は、老朽化が著しく、かつ橋梁部及びその前後の道路区間は、幅員狭小で大型車の円滑な交通に支障をきたしており、また岩手医科大学附属病院等が矢巾町に移転することに伴い、交通アクセスの利便向上を図る必要があることから、平成23年度に橋梁架替事業に着手し、これまでに地盤調査や景観検討、道路及び橋梁の詳細設計、用地測量、補償物件調査、用地補償等を進めてきたところです。</p> <p>平成28年度は早期の橋梁工事着手を目標に用地取得、物件補償、河川占用協議を進め、河川占用協議については概ね完了の見込みとなったところです。</p> <p>平成29年度は引き続き用地取得、物件補償を進めるとともに橋梁工事に着手する予定です。(B)</p> <p>(2) 一般県道渋民川又線 (門前寺地区、白沢地区、鷹高地区、川又地区)・主要地方道盛岡環状線(川又地区)</p> <p>歩道設置については、各地域から多くの要望があることから、必要性や緊急性の高い箇所から整備を進めています。ご要望の箇所については、今後の交通量の推移、地域の沿道状況や県全体の進捗状況等を踏まえ検討していきますが、早期の事業化は難しい状況です。(C)</p> <p>(3) 一般県道渋民田頭線(旧大更好摩線)・好摩停車場線(好摩地区)</p> <p>歩道設置については、各地域から多くの要望があることから、必要性や緊急性の高い箇所から整備を進めています。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B C</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<ul style="list-style-type: none"> ●一般県道大ヶ生徳田線 徳田橋 ●一般県道渋民川又線・主要地方道盛岡環状線 門前寺地区, 白沢地区, 鷹高地区, 川又地区 ●一般県道大更好摩線・好摩停車場線 好摩地区 ●都市計画道路向中野安倍館線 前九年二丁目～上堂一丁目地区 ●都市計画道路盛岡駅長田町線 長田町地区 ●都市計画道路盛岡駅本宮線 杜の大橋 ●主要地方道盛岡環状線 岩姫橋 	<p>ご要望の箇所のうち、渋民田頭線（旧大更好摩線）については、平成24年度から用地買収を進め、平成27年度には一部工事に着手したところであり、引き続き事業の推進に努めていきます。（B）</p> <p>好摩停車場線については、今後の交通量の推移、地域の沿道状況や県全体の進捗状況等を踏まえ検討していきますが、早期の事業化は難しい状況です。（C）</p> <p>（4）前九年二丁目～上堂一丁目 前九年二丁目～上堂一丁目の整備については、諸調査を実施するとともに、今後の交通量の推移や地域の沿道状況を踏まえ、県全体の整備計画の中で事業化の時期を検討していきます。（C）</p> <p>（5）長田町 長田町の整備については、関係機関と調整を図りながら電線類の地中化を進めるとともに工事を継続し、早期の完成を目指します。（B）</p> <p>（6）杜の大橋 杜の大橋については、県全体の公共事業予算の動向を踏まえながら、全体計画の早期完成を目指します。（C）</p> <p>（7）岩姫橋 岩姫橋については、平成28年度から補修工事を実施しますが、建設後50年経過した老朽橋で、幅員も狭く橋梁前後の区間においても曲線区間が連続することから、整備の必要な区間として認識しています。岩姫橋の架替を含む改良整備については、早期の事業化は難しい状況ですが、交通量の推移や公共事業予算の動向等を見極めながら検討していきます。（C）</p>	盛岡広域 振興局	土木部	B C

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>15 岩手県管理河川改修事業の促進について</p> <p>盛岡市内を流れる岩手県管理河川のうち、一級河川北上川(きたかみがわ)水系木賊(とくさ)川(がわ)では、平成14年7月の台風により115戸の床上・床下浸水被害、平成19年9月の大雨では避難勧告が発令されるなど、住民に大きな不安を与えております。</p> <p>また、玉山地域の北上川、松川(まつかわ)においては、平成25年9月に発生(はっせい)した台風により、86戸の床上・床下浸水をはじめ、道路や農地への冠水、河川護岸の崩壊など甚大な被害が生じており、早期の災害復旧と抜本的な河川改修により市民の安全・財産の確保が求められております。</p> <p>つきましては、住民の安全な暮らしを守るため、これら3河川の改修事業の促進について要望いたします。</p>	<p>木賊川の河川改修については、「遊水地＋分水路＋河道改修」の手法を治水対策の基本として段階的な整備により事業を進めており、平成23年5月には分水路への通水を開始するなど治水安全度を高めたところです。</p> <p>昨年度は、遊水地予定地の用地取得が完了、遊水地の工事に着手しました。</p> <p>平成28年度は、引き続き遊水地の工事を進めます。</p> <p>(B)</p> <p>北上川および松川については、被災した14箇所すべての復旧工事が完成しております。</p> <p>「盛岡北圏域河川整備計画(案)」を平成26年度に策定、平成27年度から河川改修事業に着手したところです。</p> <p>平成28年度は、昨年度に引き続き、河川改修実施のための設計を進めるとともに松川下流部の用地測量を実施することにしております。(B)</p>	<p>盛岡広域 振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>16 都市基盤河川改修事業の推進について</p> <p>盛岡市内を貫流する一級河川北上川水系南川(みなみかわ)は、毎年、降雨期には洪水による浸水被害が懸念されており、沿川住民の不安を解消するため、早期の河川改修が強く要望されております。</p> <p>また、当地区は、盛岡南新都市土地区画整理事業の完工に伴い、雨水の流出量が増加し、河川の整備が急務となっております。また、道明地区土地区画整備事業及び同地区に隣接して実施されている生活環境整備事業においては、10年以内での完成を目指し整備が進められており、市民の安全と安心のために、当河川の整備と一体で取り組む必要があります。</p> <p>つきましては、都市基盤河川改修事業の着実な推進について御配慮いただきたく要望いたします。</p>	<p>盛岡市が南川の国道4号より上流で進めている都市基盤河川改修事業は、盛岡南新都市土地区画整理事業が概成し、県が下流で実施している南川総合流域防災事業が進展していることから、国及び盛岡市と連携を図りながら、事業が着実に推進されるよう事業費の確保に努めていきます。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>17 築川ダム建設事業の促進について</p> <p>築川ダム建設事業が着実に進展しておりますことは、岩手県御当局の御尽力によるものと深く感謝いたしております。</p> <p>一級河川築川流域の洪水氾濫危険区域には、約6,300人が生活しており、平成14年7月の台風6号の洪水では堤防の一部が崩落するなど、浸水被害が懸念され、住民に大きな不安を与えております。</p> <p>近年、全国的に集中豪雨や局所的な大雨が増大するなか、平成25年8月9日に発生した低気圧による大規模な出水では、御所ダム及び四十四田ダムにおいて洪水調節等の連携により河川の水位低減を図り、洪水被害の防止に大きな役割を果たしました。</p> <p>築川ダムには市民の安全安心な生活を確保するための洪水防御の役割のほか、水道用水の確保や河川環境の保全、水力発電による二酸化炭素の軽減など多くの役割を担っていることから、早期完成が期待されております。</p> <p>つきましては、築川ダム建設事業の促進について要望いたします。</p>	<p>築川ダム建設事業は、平成4年度に国庫補助事業として採択され、これまで貴市の協力を得ながら湛水区域の家屋の移転や土地収用裁決手続きを完了させるなど、平成32年度のダム完成に向け着実に事業を推進しています。</p> <p>ダム本体工事については、平成26年12月に築川ダム建設(堤体工)工事の請負契約を締結し、今年度、基礎掘削工事の完了と、コンクリート打設用仮設備を完成させ、平成29年度当初より本格的なダム本体打設を開始する予定としています。</p> <p>今後も御要望の主旨を踏まえ、事業の早期完成に努めていきます。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>18 急傾斜地崩壊対策事業の促進について</p> <p>がけ崩れを含めた土砂災害から地域住民の生命と財産を守り、安全な生活環境を確保するため、急傾斜地崩壊対策事業が着実に実施されておりますことは、岩手県御当局の御配慮によるものと深く感謝いたしております。</p> <p>しかしながら、平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震やその後の余震により、土砂災害危険箇所の地盤が広範囲に緩み、大雨や地震による土砂災害の発生が懸念されております。</p> <p>特に、「安倍館(あべたて)地区」では、要望箇所に加え、隣接する箇所においてがけ崩れが発生するなど、予断を許さない状況となっているとともに、平成25年8月に発生した大雨・洪水により、繫(つなぎ)地区の急傾斜地の一部斜面が崩落するなど、地域住民の安全確保が必要となっております。</p> <p>つきましては、急傾斜地崩壊対策事業の「安倍館地区」、「桜山(さくらやま)(その3)地区」の新規事業採択、及び「山岸(やまぎし)地区」、「下米内(しもよない)二丁目地区」、「繫地区」の事業促進について要望いたします。</p> <p>また、平成27年1月には、改正土砂法が施行されたことから、危険箇所の基礎調査の早期完了と、その結果の速やかな市民周知について要望いたします。</p>	<p>急傾斜地崩壊対策事業は、事業用地について土地所有者からの寄付が前提になります。</p> <p>「安倍館地区」については、土地所有者の了解のもと、今年度地質調査を実施し工法検討を行ったところであり、今後は、その結果を踏まえ土地所有者から用地の協力を得ることとしています。(B)</p> <p>「山岸地区」は、平成27年度に土砂災害警戒区域に指定、今年度新規事業採択となり調査設計を行ったところであり、今後は、工法について住民説明を行うとともに、急傾斜地の区域指定、用地、物件調査を進めることとしています。(B)</p> <p>「繫地区」の急傾斜地については、既存施設の上部が崩落したことから、平成26年度は防護柵の復旧を実施したところですが、平成27年度に測量設計を行い、今年度は用地補償が完了、工事に着手する予定です。(B)</p> <p>「下米内二丁目地区」については、平成20年度から補助事業により調査設計を行っておりますが、環境保全対策や事業用地の寄付等について、一部の方からご理解をいただけない状況にあることから平成27年度に事業を休止しました。</p> <p>なお、地元町内会等には、事業休止の説明を行っていません。(C)</p> <p>「桜山(その3)地区」については、平成27年度に調査設計を発注し、現在、予備設計を進めています。(B)</p> <p>盛岡市における土砂災害危険箇所は急傾斜、土石流、地すべりを合せて596箇所あり、443箇所について基礎調査済みとなっております。基礎調査が完了した箇所については、土砂法の改正により未指定の箇所を含めて全て県のホームページにより公表されています。残りの153箇所については平成30年度までに調査完了の予定としており、盛岡市と連携して危険箇所の指定を進めていきたいと考えています。</p>	盛岡広域振興局	土木部	B C

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>19 盛岡市土地区画整理事業の推進について</p> <p>土地区画整理事業は、盛岡市のまちづくりに大きな役割を果たしてきたものの、少子高齢化・人口減少社会の進展や事業費確保、保留地等の土地処分価格の下落、事業の長期化などにより狭隘道路や上下水道未整備区域の解消といった生活環境の改善が進まない状況にあることから、事業計画の見直しが求められています。</p> <p>このような状況を改善するため、平成24年度から関係権利者との意見交換会を重ね、また、道明(どうみょう)地区及び都南(となん)中央(ちゅうおう)第三(だいさん)地区においては、平成27年度から事業区域の縮小を含む大幅な見直しを実施しており、事業区域の縮小等により事業費を削減しても多額の事業費が見込まれ、同時に、土地区画整理事業によらない手法で整備を図る区域の生活環境改善を早期に行う必要があります。</p> <p>つきましては、盛岡市の土地区画整理事業の推進と土地区画整理事業によらない区域の生活環境改善推進について御配慮いただくとともに、引き続き、国に働きかけていただきたく要望いたします。</p> <p>●太田地区、道明地区、都南中央第三地区</p>	<p>今後とも土地区画整理事業の推進を図るため、事業費の確保について、国に働きかけていきます。</p> <p>なお、土地区画整理事業によらない手法で整備を図る区域の生活環境改善推進については、貴市とともに必要な措置を検討していきます。</p>	盛岡広域 振興局	土木部	B

盛岡市

要望内容	取組状況(方針)	振興局名	担当所属名	反映区分
<p>20 循環型社会形成推進交付金による浄化槽整備の推進について</p> <p>盛岡市は、健全で良好な水環境の創出を目指して、公共用水域の水質保全及び衛生的な生活環境の確保を図るため、「公共下水道」「農業集落排水」「浄化槽」の3事業により、汚水処理事業を推進しています。そのうち、公共下水道の事業計画区域及び農業集落排水の事業計画区域を除いた区域については、循環型社会形成推進交付金を利用し、浄化槽の整備を進めております。</p> <p>また、近年の交付金制度への移行に伴う国費等の財源確保の困難性、人口減少等の社会経済情勢の変化、今後増大する汚水処理施設の改築・更新を踏まえ、より効率的に持続可能な汚水処理事業を推進するため、市では昨年度「盛岡市汚水処理基本計画」を策定いたしました。この計画においては、公共下水道の計画区域を縮小し、浄化槽による整備区域を拡大することとしています。</p> <p>環境や衛生に対する市民意識は大きく高まってきており、浄化槽による早期の汚水処理の要望が増加している傾向にあり、さらに、毎年のように、多くの市民から浄化槽設置の要望が寄せられていますが、その要望に対して応えることができない状況が続いています。</p> <p>つきましては、盛岡市浄化槽設置整備事業の一層の推進を図るため、浄化槽整備における循環型社会形成推進交付金の予算確保について、国に働きかけていただきたく要望いたします。</p>	<p>循環型社会形成推進交付金の予算確保については、これまで国に対し要望を行ってまいりましたが、要望額に対して満額の確保には至っていない状況です。</p> <p>一方、循環型社会形成推進交付金の予算執行上の課題として、県による市町村間流用が認められていないこともあり、毎年度不用額が発生している状況があります。</p> <p>平成26年の地方分権改革における地方からの提案に対し、国では「循環型社会形成推進交付金に係る交付については、効率的な浄化槽の整備を図るため、毎年度早い段階で地方公共団体における執行状況を確認し、調整するなど予算配分の方法について運用改善を行う」旨の対応方針を閣議決定しています。県としても、国の方針を受け市町村の執行状況を確認し、予算の調整に努めていきます。</p> <p>また、汚水処理施設の10年概成への取組にあたり、市町村の浄化槽整備の需要増が見込まれることから、本年6月に循環型社会形成推進交付金の予算確保について国に対して要望を行ったところです。</p>	<p>盛岡広域振興局</p>	<p>土木部</p>	<p>B</p>